

「第17回 浜松市調べ学習コンクール」審査結果について

中央図書館

1 開催趣旨

図書館の本やインターネット等様々な情報を使って、日常生活や学習上の疑問点を考え、解決を導く「調べ学習」の研究レポートを募集し、その努力や工夫を評価することで、調べ学習の振興を促す。これにより、小学生の「問題発見・解決能力」や「情報活用能力」等、新しい時代に求められる資質・能力を養うとともに、図書館利用の促進を図る。

2 主 催 浜松市、浜松市教育委員会

3 後 援 一般社団法人浜松青年会議所、公益財団法人図書館振興財団

4 対 象 浜松市内の小学3～6年生

5 審査員 浜松市退職校長親和会及び主催、後援団体から選出した13人 (うち一人は審査委員長)

6 応募数

(1) 応募学校数 84校

(2) 応募点数 1,515点

学 年	応募人数
3年生	254人
4年生	329人
5年生	397人
6年生	535人

7 表 彰

市長賞、教育長賞、中央図書館長賞 各1人

優秀賞 各学年2人 計 8人

優良賞 各学年3人 計12人

奨励賞 各学年5人 計20人

学校賞 5校

8 表彰式

(1) 日 時 令和7年11月3日(月) 午前10時～11時

(2) 会 場 浜松市立中央図書館 大会議室

9 作品傾向

- ・時事、社会問題(万博、AI、税金、米)
- ・自然、環境、災害(天気・気象、ごみ、身近な植物、星座、地震、防災)
- ・郷土関係(徳川家康、お茶)
- ・歴史、文化(各地の史跡、歴史上の人物、戦争、色、漢字、将棋)
- ・国際理解、地理(SDGs、特定の国の歴史や暮らし)
- ・生き物(昆虫、ネコ、犬、恐竜、鳥)
- ・社会、福祉、人の暮らし(ユニバーサルデザイン、特定の職業について)
- ・からだ、病気、健康(熱中症、骨、アレルギー)

10 全国コンクールへの出品

市長賞、教育長賞、中央図書館長賞、優秀賞、優良賞の計23点は、全国コンクールに出品。

上位三賞受賞作品のあらましと評価について

【市長賞】 作品名「バブル経済 おったまげ〜」 浜松市立広沢小学校5年 大谷 香遥

（作品あらまし）

テレビ番組をきっかけに、なぜバブル経済は始まり終わったのか、またその時の人々の生活はどのようなものだったのか疑問に思った。バブル経済とは何かということから、日本の経済の移り変わりや流行した言葉を調べた。また、バブル期を経験した方にインタビューを行い、より深く当時の様子について理解した。ファッションや食べ物、エンタメにも幅を広げ、多くの事柄を調べながらも、一つ一つ理解して進めることを心掛けた。

（評価）

テーマの着眼点がとてもおもしろく、楽しんで調べたことが伝わる。難しい経済の用語も一つ一つ丁寧に調べ、絵や表も効果的に使い、見やすく工夫してまとめられている。

【教育長賞】 作品名「ナウマンゾウの聖地浜松 ナウマンゾウ博物館をつくるゾウ」 浜松市立伊佐見小学校6年 阿部 芳美

（作品のあらまし）

昨年、ナウマンゾウについて調べた中で、ナウマンゾウの化石が発掘されたことは同じなのに、なぜ野尻湖にはナウマンゾウ博物館があって、佐浜にはないのか疑問に思った。浜松の博物館と他の博物館を比較、施設の方へインタビューを行い、化石があるだけでは博物館が出来ないことを知った。浜松で博物館をつくるには、自分が学芸員になって化石を発掘するのが近道だと知り、学芸員のことも調べた。また、地域の活動や野尻湖の発掘に参加し、浜松のナウマンゾウの化石の貴重さ、すばらしさを伝えたいと考えた。

（評価）

昨年度の内容を踏まえ、次々と疑問を見つけてさらに調べを進めている。見開きで見やすくまとめられていて、分かりやすい。また、自分が出来ることにつなげているのが良い。

【中央図書館長賞】 作品名「未来に残せるのはゴミか希望か〜竹が教える循環する生き方〜」 浜松市立船越小学校6年 坂口 仁珈

（作品のあらまし）

これまでに、防災、蚕、味噌について調べ、自然と人間の手で作り上げてきたものが現在どんどん失われてきたように感じた。また、SDGsの本を読み、今の自分の生活の中で出来ることはあるか探したいと考えた。海でのごみ拾いを通してプラスチックが多いことを知り、砂からマイクロプラスチックも発見した。それがまわりまわって人体に影響がある可能性を知り、SDGsと相性の良い竹に注目した。これからは、未来の人々が苦しまないよう、竹のように出来るだけ土に還る素材を選び、地球を守っていききたいと考えた。

（評価）

過去3年に渡る調べ学習を総括した上で、今後の自分の行動に資するテーマを選んでいる点が良い。まとめ方も分かりやすく、4年間の集大成と言える力作である。